

写真は熊本市街。中央部に熊本交通センター、後方に阿蘇の山なみが見える。

# 空からこんにちは



「話のくずかご」という欄は、そのくだけた課題から、おそらく書く方も読む方も、書き捨て、読み捨ての、息抜きページかと思っておりましたが、前号までの玉稿を拝見しておそれいりました。

とかく私も宣伝に関係する者の作品については多かれ少なかれ誇大表現と受取られる場合が多く、つねに反省しなければならぬことだと思っております。

左の抜萃の一文は昨今の欠陥製品追求に対して広告協会がその機関紙に述べた中の一節であります。私どもアドマンへの警告であり、広く観光業界の方々にも聞いて載せたいことばです。

——われわれは、特に有名品、銘柄品についての欠陥や事故が報道される場合なんとも言えないにがにがしい気持ちになる。それは多年營々積み重ねてきた広告活動の貴重な成果に暗い影がさすのではないか、また消費者のショックが製品や企業イメージにはね返るのが恐ろしい。特に、有名品であるがための責任は常に重いと云はねばならないし、それをささえる基本は企業の倫理感覚にあることがはつきりしてき



## 他山の石

轟 周 平

た——略。とっています。なお終りの方に——ちゃんと事故を未然に防止する装置を備えている交通機関でも、これを扱う一人の欠陥状態からメカニズムが生かされずに終ることも記しています。私はその一文の中に大へん厳しいものを感じたのですが。

観光というレジャー産業が、その末端になにかの欠陥をもっていたとしても、人命に直接関係しない限り観光業

者は案外無関心なのではないでしょうか。

次のお話は、つい先日、旅行での見聞で同じ県内にある三つの観光地の印象です。

瀬戸内海の小さな島にS町というのがあり、そこには西の日光と自ら称える新しい寺があります。町の目抜き通りはほとんどが土産品店という観光一本の島ですが、店員の態度に強引(ごういん)さがなくて大へん気持よく、

特に感心したのは観光とはあまり縁のない薬局で思いがけぬ親切な応待をうけたことです。バイクのおじさんこの通りではスピードを落して客をよけ遠慮勝ちにスミの方を通りました。頭こそ下げていませんが、島の人たちみんなが感謝の気持ちの上で生活しているのでしょう。

この島に渡る本土の港は〇市といって林美美子の放浪記に出てくるところ

です。港を見下す岩山は風致に富んで頂上近い岩場には古いお寺もあり、特にケーブルカーの終点からお寺に通ずる「文学の小みち」は最近のアイディアです。松林の小径に点在する岩石に

美美子をはじめ、子規、山陽、直哉などの詩、句を彫刻して、なかなかの思いつきです。わが熊本にもこんなところが出来ないかと言いたいところ。それにしても、ケーブルカーの起点に着いたとき、この山に登るべきか、

と私は一瞬ためらったものです。小高いその場所から見下すウラは神社の鳥居で、ケーブルのロープに副って大きな拝殿、神殿が真下にあるのです。お寺に参詣(さんけい)する観光客が心情としてお宮を足下に出来るでしょうか。それでもケーブルカーは登る。現在国内の観光地の大半には神社、仏閣が含まれているようですが、すでに信仰の対照としての価値がうすいとはいえ、これでもいいのか。の疑問はのこります。

このあと厳島へ回りましたが、この観光管理には感心しました。紅葉谷のケーブル起点へ通ずる自動車道は紅葉谷から見えない横の山をめぐり、循環式のロープウェイは乗りかえて頂点獅子岩に達するまで、海路からも、厳島神社側からも絶対に見えないよう工夫されていて、神社の尊厳も紅葉谷の自然遊歩道も完全に近い姿で現代から独立しています。

私たちはあらゆる機会に熊本の観光地を最大級のキャチフレーズで全国にPRするのですが、文化の余恵が限度を越えて広がるならば、それが観光地としての欠陥にならないかと少々心にかかります。(商業デザイナー・二科会々員)